



南西諸島で栽培されるイモ類の調査と利用、保存

植物資源科学プログラム・園芸作物生産研究分野 西澤 優

研究室HP : <https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/agri/agri102/>

研究の背景および目的

鹿児島県本土以南には大小様々な島が数多く存在します。その島々には独特な作物が存在したり、その利用法は島特有のものだったりします。特にイモ類（ヤムイモ、タロイモの仲間）は在来のもが多く存在します。

一方、島独特の作物や利用法は、当然ながら地域限定的であり、後継者不足等で消滅の危機に瀕しています。一旦失われると復活させることは困難です。

そこで、島々に存在し、利用されるイモ類について着目し、**在来系統の種類やその利用について調査し、どのように選別、保存していくかを研究しています。**

おもな研究内容

1. 在来系統の収集

まずは島々をめぐり、そこに存在する独特なイモ類を収集します



図. 奄美在来ヤムイモ
‘コーシャマン’



図. 収穫されたタイモと栽培されている様子

2. 形態的、遺伝的分類

収集したイモ類を分類し、特徴を明確にします



図. 複合的（形態的、遺伝的、生理生態的）な調査
未解明な在来イモ類の特徴を解き明かす

3. 生理生態の調査と 栽培方法検討

光合成測定や成分分析を行い、ベストな栽培条件を模索します

4. 利用方法と保存方法

調べた結果をもとに、今後どのように利用、保存するか検討します



図. 在来イモ類を使った郷土の料理
栽培されたものをどう利用するかまで考える

期待される効果・応用分野

島特有のイモ類について明らかにされていないことは多いため、それを解明することは、そのイモ類たちの様々な利用方法を見出すことにつながります。**多様な利用法が確立できれば、種の保存や食文化の保存に大きく貢献されます。**

また、生理生態について調査することは、機能性成分や病害虫耐性などの有用な形質の発見につながり、貴重な遺伝資源としての情報になり得ます。これは、**新しい品種育成にも大いに役立つと考えられます。**